豊橋市自然史博物館研報　Sci. Rep. Toyohashi Mus. Nat. Hist., No. 24, 33–35, 2014

知多半島におけるツチガエルの生息地の一例

島田知彦*・坂部あい**

A report of Japanese wrinkled frog *Glandirana rugosa* from the Chita Peninsula, Aichi Prefecture, Japan

Tomohiko Shimada* and Ai Sakabe**

愛知県知多半島におけるツチガエル *Glandirana rugosa* の分布状況には不明な点が多い．知多半島の各地で両生類相の調査を行った高津（1998）は，知多半島の両生類を 10 種［トウキョウサンショウウオ（＝カスミサンショウウオ），アカハライモリ，アズマヒキガエル，ニホンアマガエル，ニホンアカガエル，トノサマガエル, ダルマガエル（＝ナゴヤダルマガエル），ウシガエル，ヌマガエル，シュレーゲルアオガエル］とした上で，ツチガエルについて，「すでに絶滅したと思われる」と述べている．一方，それ以降に発行された『東浦町誌（東浦町，2000）』では，知多半島北部にあたる同町内のツチガエルについて，大幅に減少しているものの，絶滅してはいない旨の記述があり，高津（1998）とは見解を異にしている．一方で同誌では本種の同定に誤りがある可能性にも言及しており，その記述にはやや疑問が残る。

愛知県においてツチガエルは，県のレッドデータブックの情報不足種として位置づけられており（愛知県，2009），その分布情報の蓄積が求められている．今回我々は，知多半島の中部にあたる，知多郡武豊町の隣接する 2 つのため池において，ツチガエルの生息を確認した．この記録は，現在でも知多半島にツチガエルが確実に分布していることを示すものであり，この地域における本種の減少に対する注意喚起の意味合いも含め，ここに報告する．

確認状況

2012 年 9 月 3 日（昼間）

愛知県知多郡武豊町富貴カル田の谷戸田の奥にあるため池（池 A：34° 49’ 44” N，136° 53’ 12” E：海抜 40 m）でツチガエルのメス成体と上陸直後と思われる幼体を 1 個体ずつ採集した（愛知教育大学動物標本 AUEZ 985，987）．池の周辺にはヌマガエル *Fejervarya kawamurai* が多く，幼生や成体の捕食者となり得る生物としてはコイ *Cyprinus carpio* とアメリカザリガニ *Procambarus clarkii* が見られた．

池 A は長さ 75 m，幅 15 ～ 25 m ほどの東西に長い長方形であり，周囲は樹林に覆われている．水は西側から沢の水が流入しているが，流出口は明瞭でない．底質は砂地が多いが，部分的に落ち葉の堆積も見られる．周囲に歩道や踏み跡はなく，最近利用された形跡はない．周囲は高さ 1.5 ～ 2 m ほどの堤防で囲まれており，周囲から急に落ち込む形になっているが，堤防の中はすり鉢状になっていて歩きやすい．水位は測っていないが，池の西側はかなり沖まで膝下程度の遠浅になっている．

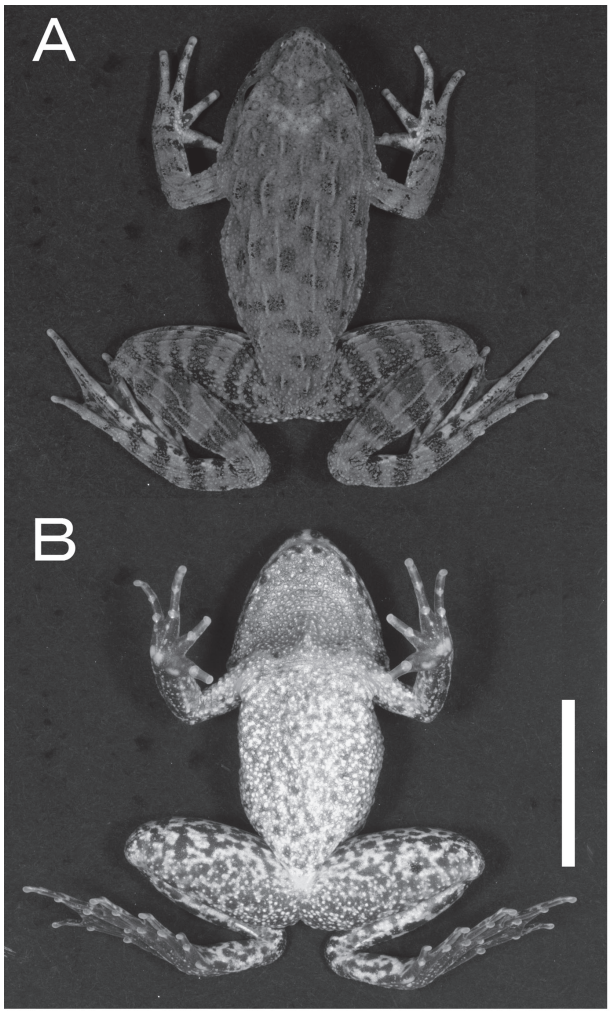
2012 年 10 月 22 日（昼間）

池 A においてツチガエルの成体と幼生を確認した

* 愛知教育大学教育学部理科教育講座．Aichi University of Education, Faculty of Education, 1 Hirosawa, Igaya, Kariya, 448-8542, Japan.
** 愛知教育大学大学院教育学研究科理科教育専攻．Graduate School of Education, Aichi University of Education, 1 Hirosawa, Igaya, Kariya, 448-8542, Japan.
原稿受付　2013 年 10 月 14 日．Manuscript received Oct. 14, 2013.
原稿受理　2013 年 10 月 30 日．Manuscript accepted Oct. 30, 2013.
キーワード：愛知県，武豊町，知多半島，ため池，ツチガエル．
Key words：Aichi Prefecture, Taketoyo Town, Chita Peninsula, agricultural pond, Japanese wrinkled frog.

ほか，池 A より 1 つ下側の池（池 B：34° 49’ 44” N, 136° 53’ 15” E）において，ツチガエルの幼体を 2 個体確認した．池 B においてはニホンイシガメ *Mauremys japonica* を確認した．

池 B は池 A から 40 m ほど東側にあり，堤防のすぐ下には水田がある（この水田では 2012 年は稲作が行われたが，2013 年には行われなかった）．形状は円形に近く，直径 25 m 程度．周囲は樹林に覆われており，水の流入口，流出口ともに明瞭でない．底質は泥質または砂地で，明らかに池 A より浅く，全面を胴長で簡単に歩くことができる．下の水田から上る歩道は草に覆われており，最近利用された形跡はない．



第 1 図 . 愛知県知多郡武豊町で採集されたツチガエルメス成体（AUEZ 1671）の背面観（A）と腹面観（B）．スケールは 2 cm.

Fig. 1. Dorsal (A) and ventral (B) views of a female of wrinkled frog (AUEZ 1671). Scale bar=2 cm.

2013 年 2 月 20 日（昼間）

池 A において，ツチガエルの幼生（AUEZ t017）を採集した．また池 B とそのすぐ下の水田においてはニホンアカガエル *Rana japonica* の卵塊を確認した．

2013 年 6 月 28 日（夜間）

池 A において，ツチガエルの成体，幼体（AUEZ 1670-1689）と幼生（AUEZ t018）を採集した（第 1 図）．池の岸際にはツチガエルの成体が多く，盛んに繁殖音を発していた．

2013 年 9 月 24 日（夜間）

池 A において，ツチガエルの幼体を 1 個体確認し，幼生（AUEZ t019）を採集した．池の周辺にはヌマガエルの成体が多いほか，ウシガエル *Rana catesbeiana* の幼体も数個体確認された．時折ニホンアマガエル *Hyla japonica* の鳴き声が聞かれた．

考　察

ツチガエルは，体色や体表面の隆起などの点でヌマガエルと共通した特徴を持ち，間違われることがある（愛知県，2009）．このため，ツチガエルのかつての分布を文献情報から推測する際には，ヌマガエルとの混同に留意する必要がある．

この両種の，知多半島における 1980 年代までの分布に関しては，1）両種を「普通」種として挙げているもの（e.g. 常滑市，1976），2）両種を挙げ，ヌマガエルはあまり多くないとしたもの（e.g. 知多市，1981），3）ツチガエルを挙げ，ヌマガエルを挙げていないもの（e.g. 武豊町，1984），などがあり，これらの情報が正しいとすれば，当時ツチガエルは，知多半島では少なくとも希少な種ではなかったようである．しかし，90 年代後半の知多半島では，既にツチガエルが激減していたことが，高津（1998）や東浦町（2000）などによって述べられている．

島田・坂部（2014）は，知多半島の 47 ヶ所の水田において，ツチガエルの繁殖期に鳴き声調査を行ったが，ツチガエルの鳴き声が確認された水田はなかった．近年の水田は乾田化が進み，ツチガエルの繁殖には適さないとされており（愛知県，2009），知多半島でも平野部の水田ではツチガエルは姿を消していると考えられる．

一方でツチガエルは，ため池や河川などの環境にも生息するため（前田・松井，1999），知多半島でも今

回の調査地のような，山中の小規模なため池には比較的生き残りやすいものと考えられる．ただ，こうしたため池の中には，放棄されて干上がったり，埋め立てられたりしている箇所も少なくない．またウシガエルが高密度で生息して，他の在来のカエルの生息が難しくなっている場所も多い．

今回ツチガエルの生息が確認された池では多くの幼生が確認され，現時点では繁殖地として良好な状態で機能しているようだが，こうした状況がいつまで続くのかは不明である．またウシガエルやザリガニ，コイなど，外来の捕食者も共存しており，今後捕食圧が高まると，ツチガエルの個体群が維持できなくなる可能性もある．

知多半島でツチガエルが激減していることは一般にはあまり認識されておらず，たまたま発見されても分布情報が残りにくいのが現状である．このように，全国的には普通種であっても局所的に激減している種に関しては，その現状をより一般に周知し，分布情報の共有に努める必要がある．

謝　辞

調査に御協力いただいた前田翔太氏に深謝する．

引用文献

愛知県，2009．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2009 動物編．愛知県環境部自然環境課，名古屋，649 p.

知多市，1981．知多市誌本文編．知多市誌編さん委員会，知多市，953 p.

東浦町，2000．新編東浦町誌 資料編 2（自然）．東浦町誌編さん委員会，東浦町，506 p.

前田憲男･松井正文，1999．改訂版日本カエル図鑑．文一総合出版，東京，221 p.

高津英夫，1998．両生類の観察と保護．その 1．ほたる，（12）：50–82.

武豊町，1984．武豊町誌本文編．武豊町誌編さん委員会，武豊町，879 p.

常滑市，1976．常滑市誌．常滑市誌編さん委員会，常滑市，1036 p.

島田知彦・坂部あい，2014．西三河平野部の水田におけるツチガエルの分布．豊橋市自然史博物館研報，（24）：7–15.